

連珠っておもしろい

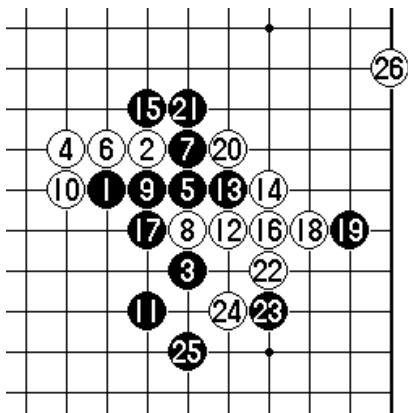
九段 河村典彦

● 第31回 ●

蔵田清隆さん追悼

追悼文は坂田さん、吉澤さんに続いて3回目である。こういう文章を書くのは本当に残念である。蔵田さんとは亡くなる前日まで会って話していただけに、本当に驚いている。日が経つにつれて、そのお姿を拝見できないことの寂しさ、残念さがボデイブローの様に響いてくる。

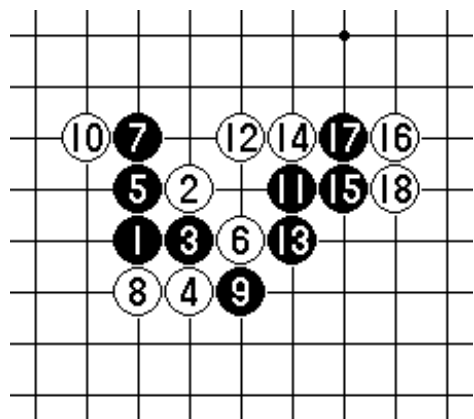
蔵田さんと言えば、流星白26と盤端に打つ手を発見されたので有名だが、初めてお会いしたのはいつだったか覚えていない。しかし、清流寺には奈良さんに連れられて行った記憶があるので、もう古い付き合いではある。本格的なお付き合いをするようになったのは私が東京に転居してからだが、記録では03年の11月か



ら城西に伺っている。蔵田さんは本当に私が来ることを喜んでくれ、まるで恋人が来たかのように出迎えてくれた。私にとつても土曜の夜は比較的参加しやすかったので、極力出席するよう心がけた。

蔵田さんは人に教えるのが大好きであった。当然城西でも初心者指導を中心に打っていたのだが、最近ハンゲームでの指導にはまっていた。私が定期的にはまなゲーム上で開催している教室に毎回来られ助けていただいていた。(私が忘れて

いる時にはメールや電話で知らせてくれたりもした)そこで出された宿題を、平日夜に生徒さんと一緒に解いていた。今は非常にレベルが高いので、蔵田さんとしても適度な問題であったと思っている。また、毎日のように練習場に行つては見込みのありそうな人を指導していた。ネットはまさに蔵田さんの人生を充実させるのにぴったりツールであった。もっと早くから普及していればもっと多大な成果が出せたであろう。



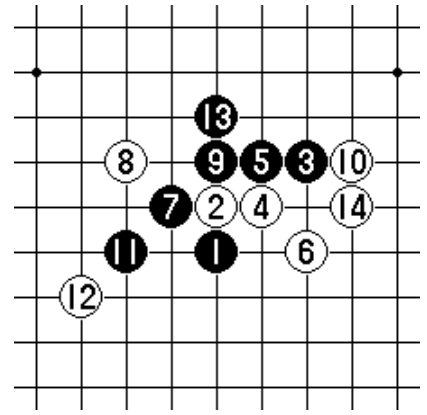
その中から、詰め連珠問題として出題した「野うさぎ発見」を掲げておこう。(連珠世界 08年4月号掲載)

「野うさぎ」とは蔵田さんのHNで、この局面からの華麗な追い詰めを蔵田さんが発見したので、「野うさぎ発見」と題したのである。まさかこの解答が追悼の文章と一緒に出るなんて想像もしていなかっただけに何とも言いようがない。今にして思えば、一時期体調を崩されてネットにも顔を出されなかったこともあり、最近咳が多かったのが、少し心配はしていたのだが、突然亡くなるとは本人も思っていないかっただろう。しまった!という顔で天国に旅立っていることで、やり残したことがずいぶんあったと思われるだけに、もう少しだけ準備をさせてあげたかった。どうして入院ぐでしよう? (神様に言うべ

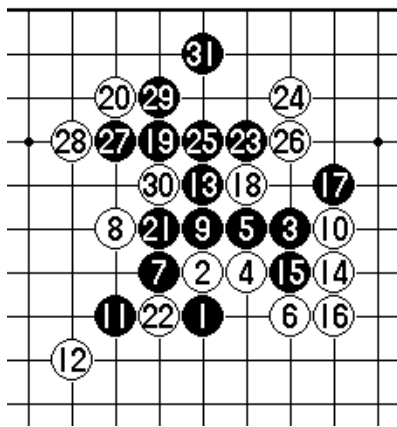
きか)。何よりルール問題が一段落して、さあこれから、という段階だっただけに、おさら無念である。蔵田さんは日本から新しい開局規定を提案してイニシアチブを取るべきという主張をされていた。珠型の枰や天元から打ち始めることについても見直すという、固定観念にとらわれない柔軟な発想を持つていた。とても昭和一枚の生まれとは思えない革新に満ちたものであり、若い我々の方が保守的に思えるぐらいであった。

蔵田さんとの思い出の対局、と思ってみても城西では棋譜は残していないし、案外やっけないので、これもまた研究の局面から拾ってみたい。

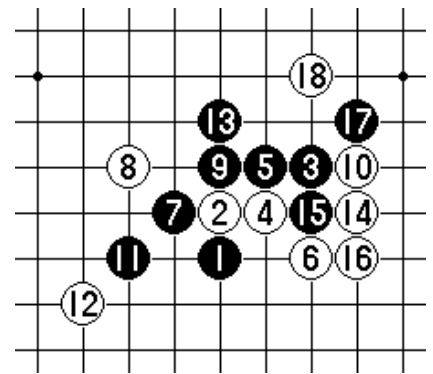
白8は中村九段が試みた一手だが、それに対し黒9から強引に手を作っていくのも有力。黒13まで雲月定石のように打ってみるのも捨てがたい。この黒13に対して、白14で黒勝ちがないと



指摘したのが蔵田さんであった。



当初、それは黒勝ちだと私は黒15からの勝ちを見つけて、蔵田さんに反論しようとしていたのだが、改めて調べてみると、白18をこ



う止めておいて黒勝ちが出ない。こころ辺は盲点になるところだけに、正確な研究が要求される。しかし、蔵田さんはネットでの生徒さんに混じって、楽しんで勝ちを調べていた。論理的に思考を繰り返すところが蔵田さんの性格に合っていたのだろう。

話は変わるが、蔵田さんは、熱海によく行かれたようだ。馴染みのホテルがあるらしく、私にも一緒に行こうと誘われていた。いつか行く機会があればいいと思っていたが、その機会がなくなってしまった。A級

リーグが熱海で開かれるので、ひよっこり見に来られたりして、私にとつては私設応援団の団長みたいな感じで心強かった。ここ数年は一番交流が深かったと思うし、いろいろな事で応援していただいた。

まさに公私にわたって支えていただいただけに、未だに亡くなられたことが信じられない。もう少し長生きして、もつと連珠界のために才能を発揮していただきたかった。温厚な性格、知識量、斬新な発想で、実践による初心者指導では群を抜いていた。また、久しぶりに出場した帝王戦予選でも見事勝ち残り、往年の実力を見せ付けたのはご存知の通りである。吉澤さんにしてもそうだが、あくなき探究心が上達への王道なのだということを示された方であったと今にして思う。